



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

米国・イラン：核協議にあわせてイラク情勢に関しても協議

6月16日夜、核協議のためウィーン訪問中の米国政府高官とイラン政府高官は、昨今のイラク情勢に関して協議を行った。両国政府の高官が核問題以外で直接協議するのは極めて稀なこと。

『The Wall Street Journal』紙が報じたところによると、イラン、EUの担当官との核協議が2時間半行われた後、イラク情勢に関する協議が「短時間」実施された。米国政府関係者によると、米国からはバーンズ国務副長官が出席した。イラン側の担当者は明らかになっていない。米国政府関係者はイランとの協議において、「(米・イラン間の) 軍事協力や、イラク人の頭の上でイラクの将来に関する戦略的な決定を含むことはないだろう」と述べている。また『Reuters』紙が報じたイラン政府関係者の証言によると、「軍事協力については議題に上らなかった」とし、「(協議の) 成果は特になし」としている。

これに先立ち、ケリー国務長官が16日の『Yahoo News』とのインタビューにて「イラン軍との協力」の可能性について問われた際、「イランが何をすることを望んでいるか見る必要がある」としながらも、「(イラクに) 真の安定をもたらす建設的なあらゆることを排除しない」と述べていた。

評価

イラク情勢における米・イラン間の軍事協力の可能性については、ケリー国務長官の発言から、その可能性が取り沙汰されていた。しかし、同日に両国政府関係者が明らかにしたとおり、現段階ではその可能性はほとんどないだろう。

15日には、イランのアリー・シャムハーニー国家安全保障最高評議会書記が、イラン・米国の協力は非現実的であると主張しており、イラン国内に米国との協力の異論があることを示唆させた。イランは既に米国の軍事介入に反対する立場を示しており（詳細は「イラン：イラク政府への支援を表明・米国の軍事介入には反対」『中東かわら版』No.59（2014年6月16日）を参照）、ペルシャ湾内において米軍のプレゼンスが増大することにも否定的な見方をしている可能性が高い。イラク情勢の安定という目標で米・イランは一致するものの、その達成方法においては違いがある。また、イラクに関してイランの影響力が増すことはサウジアラビアの反発を招く可能性があり、地域情勢にとっては新たな火種となりかねない。

(村上研究員)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799